

# 資料1

## こども・若者参画及び意見反映専門委員会

令和7年度取りまとめ資料(案)



令和8年3月

# 目次

## 【8年度に実施するとよいこと】 P3～

1. 意見反映を全国に広げていくための取組
  - 行政職員の理解の促進
  - 自治体の取組事例の共有
  - 自治体職員の横のつながりづくり
2. 人材(ファシリテーター)の養成・スキルの向上
  - 地域人材の養成
  - ファシリテーターのスキルの向上
3. 分かりやすいFB、情報提供
4. いけんぷらすの充実
  - 地域での展開
  - こども・若者視点のテーマ設定

## 【今後できるとよいこと】 P8～

1. 地方自治体の取組の更なる促進
  - 取組状況の継続的な把握
  - ガイドライン実践版の作成
  - 企画段階からの伴走支援体制の検討
2. 声が聴かれにくいこども・若者の意見を聴く取組の促進
  - 多様な声を聴く事例の創出と展開
  - アウトリーチ型の場づくりの検討
3. 意見反映や社会参画の意識の醸成
4. 意見反映の評価の在り方の検討
5. 国の取組の更なる充実

# 令和8年度に実施するとよいこと



点の取組を、面に広げる。

知識・理解・事例を広げ、より良い取組が全国的に行われるよう取り組む。



# 1. 意見反映を 全国に 広げていく ための取組

## □行政職員等の理解の促進

若者の声を聴く意義やこどもの権利の理解を自治体全体に浸透させるため、職員・管理職向け研修や首長等への働きかけを進め、全庁的な理解向上を図る。

※令和7年度から、首長への説明資料を作り、こども家庭庁幹部が働きかけを開始。(参考資料1)

## □自治体の取組事例の共有

各自治体に呼び掛けて多様な実践事例を集め、自治体が取り組みやすいようにホームページ上で発信する。声が聴かれにくいこども・若者の意見を聴く取組例も積極的に収集する。

## □自治体職員等の横のつながりづくり

自治体担当者の交流会や事例共有等の場、審議会等の若者委員の交流会を開催し、横のネットワークづくりやより良い取組に向けて学び合う機会をつくる。

## 2. 人材(ファシリテーター)の養成、スキルの向上

### □ 地域人材の養成

各自治体や地域で意見反映を支える人材を増やすため、引き続きこども意見ファシリテーター養成講座を実施する。その時には、自治体職員だけでなく、こども関連のNPOやこども・若者の居場所の職員等、地域人材の受講も促進する。

### □ ファシリテーターのスキルの向上

こども意見ファシリテーター養成講座の応用編を実施し、経験者を対象に、より実践的なファシリテーション力向上の機会を提供する。「こども若者★いけんぱらす」においては、登録ファシリテーターの継続的な学び合いの機会をつくる。

### 3. 分かりやすい フィードバック・ 情報提供

#### □ 資料作りの手引きの作成

こども・若者に届く形で、わかりやすい情報提供・フィードバックを行うため、こども・若者とともに、資料作りのポイントや工夫をまとめた手引きを作成する。作成した手引きは、各府省庁や地方自治体に周知する。

#### □ フィードバック資料の改善

こども若者★いけんぷらすにおいても、フィードバック資料の内容や発信方法を改善する。



## 4. いけんぱらす の充実

### □ 地域での展開

地域での参画機会を広げるために、「こども若者★いけんぱらす」においても、引き続き様々な地域でのいけんひろばの開催を実施していく。

### □ こども・若者視点のテーマ設定

国が設定するテーマだけでなく、こども・若者が関心のあるテーマについて意見を言うことができるよう、テーマの設定方法を工夫しながら、こども・若者テーマのいけんひろばを実施する。

また、テーマや方法について、より柔軟な意見表明機会をつくるための検討を進める。

今後できるとよいこと

# 1. 地方自治体の 取組の 更なる促進

## □ 取組状況の継続的な把握

全国の実践状況や課題を把握するため、各自治体の取組状況を調べる。

## □ ガイドライン実践版の作成

「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」を補完する、より実践的なノウハウを取りまとめた手引きを作成するなど、自治体が迷わず取り組むことができる環境を整える。

## □ 企画段階からの伴走支援体制の検討

自治体が意見反映に取り組むときに、企画段階から実施まで一貫して支援できる人材を増やすなど、持続的なサポート体制の構築に向けて検討する。

## 2. 声が聴かれにくいこども・若者の意見を聴く取組の促進

### □ 多様な声を聴く事例の創出と展開

「困難に直面したこども・若者からの意見聴取の在り方に関する調査研究」の結果を踏まえた取組や「こども若者★いけんぷらす」におけるアウトリーチ型の推進を通じて、多様な声を聴く好事例をつくり、横展開する。

### □ アウトリーチ型の場づくりの検討

場づくりそのものをこどもと一緒に考えるなど、アウトリーチ型のより良い手法を引き続き検討する。

### 3. 意見反映や 社会参画の 意識の醸成

#### □ 日常の中で意見が聴かれる土壌づくり

政策への意見反映のみならず、家庭や居場所、学校等こども・若者が日常の中で意見を聴かれ、その意見が考慮される社会への意識を醸成する。

#### □ 意見聴取から、共に作る社会へ

一過性の意見聴取から、こども・若者と対話しながら共に考え、共に政策をつくっていく社会へと、意識の醸成に向けて取組む。

## 4. 意見反映の 評価の在り方 の検討

こども・若者の参画や意見反映の質を適切に評価するにはどうしたらよいかを検討する。

プロセスの評価・場の評価・参加者の変化・社会へのインパクトなど様々な評価軸の考え方を整理し、指標づくりに向けて進める。



## 5. 国の取組の 更なる充実

- 「こども若者★いけんぷらす」の取組の在り方について、こども・若者の声を聴きながら、検証・改善を進める。
- 各省庁におけるこども・若者からの意見聴取の取組のさらなる拡大・深化について検討する。

